

噴火の驚異と観光客激減という危機に面していた霧島市。しかし、人々は諦めていませんでした。復興に向けて「がんばろう日本、がんばろう霧島」を合言葉に、多くの人々が動き出します。

2011年3月27日には、新燃岳の終息を願い、霧島神宮で新燃岳終息祈願祭が開かれ、市内の観光や商工関係者など約500人が参加し、一日でも早い終息を祈りました。祈願祭終了後には、参拝者1500人に温泉無料券を配り、これまでどおり霧島に来てもらえるようにアピールしました。

音楽で元気にしようというチャリティーライブも開催されました。4月2日には、霧島市横川町出身のシンガーソングライター山下克弘さんが、市内のホテルで無料ライブを実施。4月3日には牧園町高千穂の霧島温泉市場で「霧島音楽♪の祭典」が開かれ、霧島市に縁のある歌手などが、さまざまなジャンルの音楽を披露しました。「おじゃんせ霧島大使」の

辛島美登里さんはファンクラブの会員を全国から連れて来て、4月16日に復興支援ライブを開催。音楽で霧島をPRされました。

多くの団体や個人による募金活動も実施されました。鹿児島神宮初午祭では、実行委員会が義援金を募り、「新燃岳対策に役立ててほしい」と市に寄付。首都圏霧島市ふるさと会の皆さんは、観光を盛り上げるために観光ツアーを実施。会員から集めた義援金を寄付されました。

全国から寄せられた義援金は1,380万円(2013.1.30現在)を超え、空振で窓ガラスが割れるなどの被害を受けた方への見舞金などに使われました。ヘルメットやマスクなど多くの物資も届き、岩手県岩手町からは安全帽が寄贈され、火口に近い幼稚園や保育園の子どもたちに配りました。

霧島市議会議員は、今後の復興に向けて普賢岳の噴火を経験した長崎県雲仙

市と島原市を視察し、情報を収集。県議会議員は市が開催した住民説明会などに参加して状況を確認。夜には市内の観光施設に宿泊による支援をしました。県と市の職員互助会は、市観光施設利用について補助を出し、観光施設の利用促進を呼びかけました。

これらの活動や支援により、観光客も例年に近い数にまで戻り、住民の皆さんの暮らしは少しずつ落ち着きを取り戻していきます。

観光客が激減した時、「いつか戻ってくる」と信じて、みんなで研修を受けた「心からのおもてなし」は観光客の心をつかみ、2012年には全国の温泉地の中で、おもてなしランキング1位に選ばれました。

個人や団体、地域、企業、行政など、それぞれが今できる最大の努力をし、そこに全国からの温かい支援が加わり、霧島市は噴火前よりさらに魅力的なまちになりました。

第五章 絆

和気公園(牧園町)で行われた、おじゃんせ霧島大使の辛島美登里さんの復興支援ライブ(2011.4.16)



①霧島神宮で開かれた新燃岳終息祈願祭で少しでも早い終息を祈る参加者(2011.3.27) ②古宮址で開かれた安全祈願祭(2011.6.1) ③観光客を呼び戻すために、さまざまな観光プランを作ってPR ④「がんばろう霧島」の思いを込めて行われた山下克弘さんの無料ライブ(2011.4.2) ⑤噴火と大震災による被害から元気を取り戻そうと市観光協会がシールを作成し配布 ⑥霧島音楽♪の祭典には大勢の人が訪れ、音楽を楽しみました(2011.4.3) ⑦スポーツキャンプに来ていたサッカー京都サンガの選手が温泉に入り霧島の元気を訴えました(2011.2.12) ⑧市議会議員が普賢岳の噴火経験がある長崎県雲仙市などを視察 ⑨初午祭では横断幕で元気な霧島をPR(2011.2.20) ⑩寄贈された安全帽を園児にプレゼント(2011.2.23) ⑪多くの個人、団体から義援金が届けられました ⑫霧島市国分夏まつりでは「霧島から元気を」と書かれたリストバンドを販売し、その売り上げを義援金として寄付しました ⑬義援金は被害のあった方たちに手渡されました(2011.6.17) ⑭首都圏霧島市ふるさと会主催の復興支援ツアー(2011.6.3) ⑮関平鉱泉水にも「がんばろう」の文字

